

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	約9年11カ月間 (2019年10月15日～2029年9月11日)	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	米国3倍4資産リスク分散マザーファンドの受益証券
	米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	次の有価証券および先物取引 イ. 米国株式を対象とした株価指数先物取引 ロ. 米国国債を対象とした先物取引 ハ. 米国の不動産投資信託の受益証券または「リート」といいます。)の指数を対象指数としたETF (上場投資信託証券) ニ. 米国リートを対象としたリート指数先物取引 ホ. 金を対象とした先物取引 ヘ. 米国国債
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率 マザーファンドの株式組入上限比率	無制限
分配方針	隔月決算型	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益 (評価益を含みます。)等とし、当初設定から1年以内に分配を開始し、分配開始後は、原則として、分配対象額の範囲内で、下記イ. およびロ. に基づき分配します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。 イ. 計算期末の前営業日の基準価額 (1万円当り。既払分配金を加算しません。以下同じ。)が11,000円未満の場合、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。 ロ. 計算期末の前営業日の基準価額が11,000円以上の場合、当該基準価額に応じ、下記の金額 (1万円当り) を分配することをめざします。 (a) 11,000円以上12,000円未満の場合 ・・・200円 (b) 12,000円以上の場合・・・300円 なお、計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合には、上記の分配を行わないことがあります。
	年2回決算型	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益 (評価益を含みます。)等とし、当初設定から1年以内に分配を開始し、分配開始後は、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

米国3倍4資産リスク分散ファンド (隔月決算型) / (年2回決算型) (愛称：アメリカまるごとレバレッジ (隔月決算型) / (年2回決算型))

運用報告書 (全体版)

隔月決算型	第4期 (決算日 2020年5月11日)
	第5期 (決算日 2020年7月13日)
	第6期 (決算日 2020年9月11日)
年2回決算型	第2期 (決算日 2020年9月11日)
(作成対象期間 2020年3月12日～2020年9月11日)	

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資を行ない、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先 (コールセンター)
TEL 0120-106212
(営業日の9:00～17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<3397>
<3398>

隔月決算型

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			株 式 先 物 比 率	公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	商 品 先 物 比 率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 み 分 配 金	期 中 騰 落 率						
	円	円	%	%	%	%	%	%	百万円
1 期末 (2019年11月11日)	9,848	0	△ 1.5	51.2	16.3	156.0	38.2	58.2	39
2 期末 (2020年1月14日)	10,601	100	8.7	49.6	14.9	143.2	37.0	55.3	43
3 期末 (2020年3月11日)	10,602	100	1.0	47.3	22.0	157.5	32.3	52.7	64
4 期末 (2020年5月11日)	10,314	100	△ 1.8	31.5	34.3	211.0	18.8	34.5	67
5 期末 (2020年7月13日)	10,798	100	5.7	31.8	36.1	206.5	19.3	35.1	70
6 期末 (2020年9月11日)	11,121	200	4.8	30.1	27.7	215.0	18.6	34.7	76

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 先物比率は買建比率-売建比率です。

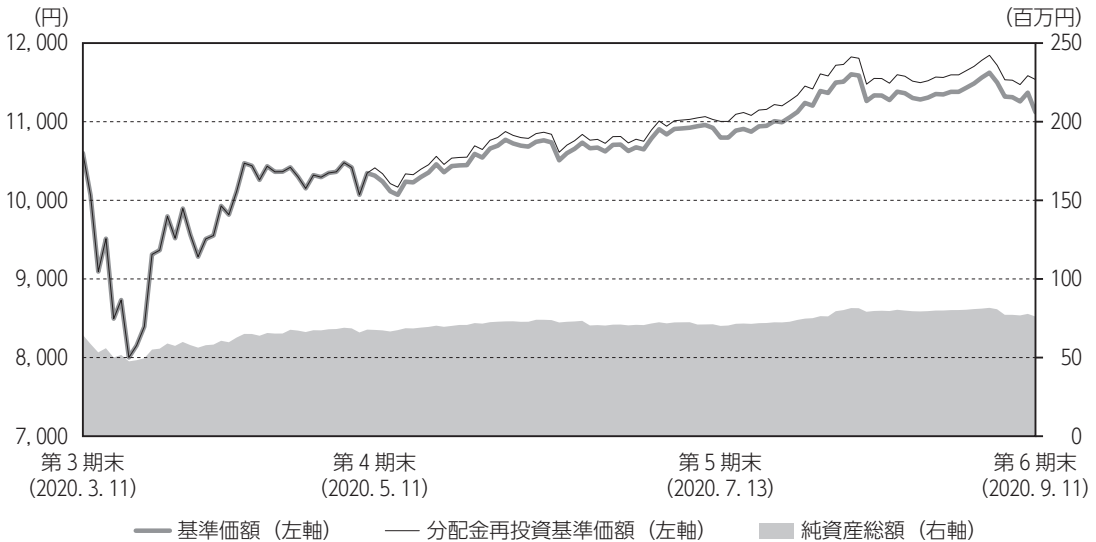
(注4) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

第4期首：10,602円

第6期末：11,121円（既払分配金400円）

騰落率：8.8%（分配金再投資ベース）

基準価額の主な変動要因

主に金価格の上昇や米国株式市況の上昇、米国金利の低下（債券価格は上昇）を受けて、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

米国3倍4資産リスク分散ファンド（隔月決算型）

	年 月 日	基 準 価 額		株 式 先 物 比 率	公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	商 品 先 物 比 率
		円	騰 落 率					
第 4 期	(期首) 2020年 3月11日	10,602	—	47.3	22.0	157.5	32.3	52.7
	3月末	9,896	△ 6.7	34.8	26.1	200.4	23.0	36.7
	4月末	10,480	△ 1.2	31.8	28.1	212.0	19.4	34.7
	(期末) 2020年 5月11日	10,414	△ 1.8	31.5	34.3	211.0	18.8	34.5
第 5 期	(期首) 2020年 5月11日	10,314	—	31.5	34.3	211.0	18.8	34.5
	5月末	10,544	2.2	31.0	33.7	213.6	19.2	35.0
	6月末	10,789	4.6	30.6	36.2	212.6	19.2	34.8
	(期末) 2020年 7月13日	10,898	5.7	31.8	36.1	206.5	19.3	35.1
第 6 期	(期首) 2020年 7月13日	10,798	—	31.8	36.1	206.5	19.3	35.1
	7月末	11,204	3.8	30.2	33.6	212.2	18.7	34.6
	8月末	11,432	5.9	31.1	38.3	211.1	18.7	34.4
	(期末) 2020年 9月11日	11,321	4.8	30.1	27.7	215.0	18.6	34.7

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2020. 3. 12 ~ 2020. 9. 11）

■米国株式市況

米国株式市況は上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首から2020年3月下旬にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念から大幅に下落しました。しかし3月下旬以降は、各国の大胆な景気刺激策や経済活動再開期待、新型コロナウイルス治療薬開発への期待などを好感し、大幅に上昇しました。9月に入ると、ハイテク株を中心に米国株式市況は下落したものの、当作成期を通してみると、上昇して当作成期末を迎えました。

■米国債券市況

米国金利は低下しました。

当作成期首から2020年3月下旬にかけては、市場の混乱を受けて現金化の動きが強まり、米国債を売る動きにもつながったことから金利は一時上昇しましたが、F R B（米国連邦準備制度理事会）が無制限の量的緩和策を含めた各種の流動性供給策を実施したことで市場の落ち着きが見られはじめ、3月末にかけて金利は再度低下しました。4月から当作成期末にかけては、金利はおおむね横ばいでの推移となりました。

■米国リート市況

米国のリート市場は下落後、緩やかな戻り基調となりました。

当作成期首から2020年3月後半にかけて、米国リート市場は下落しました。世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大する中、米国でもニューヨーク州などを中心に感染が拡大しました。人の移動は厳しく制限され、経済減速への懸念などが台頭し、リート市場は下落しました。4月は、積極的な金融・財政政策の発表や、長期的にみて割安なバリュエーション水準などから、戻りを試す展開となりました。5月から6月前半にかけては、新型コロナウイルスのワクチン開発や経済活動再開への期待感などから上昇しました。6月後半から7月にかけては、米国などで新型コロナウイルスの感染拡大が続いたことなどから、投資家の警戒感が高まり、軟調な推移となりました。8月から当作成期末にかけては、ワクチン開発進展への期待感や、世界的な金融緩和を下支えに持ち直しつつあるマクロ経済指標などを背景に、投資家のリスク選好は改善傾向となり、米国のリートは上昇しました。

■金市況

金価格は上昇しました。

当作成期首から2020年3月半ばにかけては、新型コロナウイルス問題への懸念が強まったことに

米国3倍4資産リスク分散ファンド（隔月決算型）

加えて原油価格が急落したことで信用不安が高まり、あらゆる資産を売って米ドルを買う動きになりました。そのため、通常は安全資産としての側面が強い金も大幅な下落を余儀なくされました。もっとも、金融市場が落ち着きを取り戻すと、金価格はすぐに値を戻しました。その後は、F R B（米国連邦準備制度理事会）をはじめとした各国の中央銀行による強力な金融緩和策などが支えとなり、堅調に推移しました。7月には、米中が互いに総領事館を閉鎖するなど両者の関係が一段と悪化したことも追い風となり、金価格は上昇ペースを加速させ、7月下旬に米ドルベースでの過去最高値を更新すると、8月上旬まで上昇が続きしました。しかし、米国で新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向に転じたことやワクチン開発への期待が高まったことで、経済の先行きに対する過度な悲観論が後退すると、上昇が一服し、その後は高値圏での横ばい推移が継続しました。

為替市況

米ドル円は一進一退の推移となりました。

当作成期首から2020年3月下旬にかけては、市場の混乱が米ドル需要の高まりにつながったことから、米ドルは対円で上昇（円安）しました。しかし3月末にかけては、F R B（米国連邦準備制度理事会）を中心とした当局の対応を受けて市場が落ち着いたことから米ドル買いの動きが抑制され、米ドルは対円で下落（円高）しました。当作成期末にかけては、米国の良好な経済指標や新型コロナウイルスの第2波警戒を受けたリスク回避の動きなどを受けて上下する場面はあったものの、一進一退の動きとなりました。

前作成期末における「今後の運用方針」

当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態でも高位となるように組み入れます。

米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

ポートフォリオについて

（2020. 3. 12 ~ 2020. 9. 11）

■当ファンド

「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が高位となるように組み入れました。

■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行いました。各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行いました。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第 4 期		第 5 期		第 6 期	
	2020年3月12日 ~2020年5月11日		2020年5月12日 ~2020年7月13日		2020年7月14日 ~2020年9月11日	
当期分配金（税込み）	(円)	100	100	100	200	200
対基準価額比率	(%)	0.96	0.92	0.92	1.77	1.77
当期の収益	(円)	—	100	100	200	200
当期の収益以外	(円)	100	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	(円)	421	797	797	1,121	1,121

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第 4 期	第 5 期	第 6 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円	✓ 22.83円	✓ 4.45円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	✓ 384.57	✓ 469.68
(c) 収益調整金	316.43	395.09	485.37
(d) 分配準備積立金	✓ 204.71	95.07	361.78
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	521.14	897.57	1,321.29
(f) 分配金	100.00	100.00	200.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	421.14	797.57	1,121.29

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態でも高位となるように組み入れます。

■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

1万口当りの費用の明細

項 目	第4期～第6期 (2020.3.12～2020.9.11)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	60円	0.568%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,564円です。
(投 信 会 社)	(23)	(0.222)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(35)	(0.333)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	6	0.061	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(5)	(0.051)	
(投資信託受益証券)	(1)	(0.010)	
有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
そ の 他 費 用	3	0.027	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.017)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(1)	(0.006)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	69	0.656	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

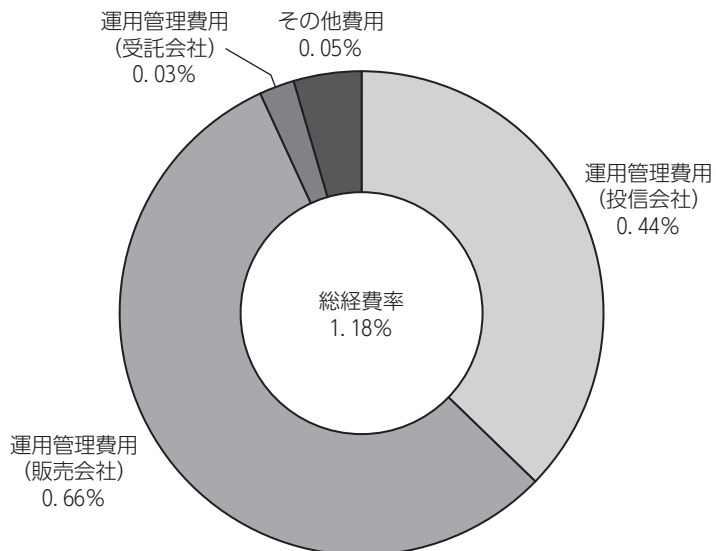
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.18%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2020年3月12日から2020年9月11日まで)

決算期	第4期～第6期			
	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
米国3倍4資産 リスク分散 マザーファンド	20,722	22,332	15,428	17,282

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■投信会社（自社）による当ファンドの設定・解約および保有状況

当作成期首 保有額	当作成期中 設定額	当作成期中 解約額	当作成期末 保有額	取引の理由
百万円	百万円	百万円	百万円	
40	—	—	40	当初設定時における取得

(注1) 金額は元本ベース。

(注2) 単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年5月11日)、(2020年7月13日)、(2020年9月11日)現在

項目	第4期末	第5期末	第6期末
(A) 資産	68,451,854円	71,193,460円	77,622,730円
コール・ローン等	1,612,071	1,557,061	2,303,495
米国3倍4資産リスク分散 マザーファンド（評価額）	66,822,783	69,407,399	75,319,235
未収入金	17,000	229,000	—
(B) 負債	852,267	1,043,246	1,518,013
未払収益分配金	655,404	649,684	1,368,630
未払解約金	80,578	253,336	3,440
未払信託報酬	115,469	138,426	143,121
その他未払費用	816	1,800	2,822
(C) 純資産総額（A－B）	67,599,587	70,150,214	76,104,717
元本	65,540,434	64,968,489	68,431,543
次期繰越損益金	2,059,153	5,181,725	7,673,174
(D) 受益権総口数	65,540,434口	64,968,489口	68,431,543口
1万口当り基準価額（C/D）	10,314円	10,798円	11,121円

* 第3期末における元本額は60,748,555円、当作成期間（第4期～第6期）中における追加設定元本額は24,018,349円、同解約元本額は16,335,361円です。

* 第6期末の計算口数当りの純資産額は11,121円です。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種類	第3期末	第6期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
米国3倍4資産リスク分散 マザーファンド	58,128	63,421	75,319

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年9月11日現在

項目	第6期末	
	評価額	比率
	千円	%
米国3倍4資産リスク分散 マザーファンド	75,319	97.0
コール・ローン等、その他	2,303	3.0
投資信託財産総額	77,622	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月11日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝106.16円です。

(注3) 米国3倍4資産リスク分散マザーファンドにおいて、第6期末における外貨建純資産（499,291千円）の投資信託財産総額（609,321千円）に対する比率は、81.9%です。

米国3倍4資産リスク分散ファンド（隔月決算型）

■損益の状況

第4期 自 2020年3月12日 至 2020年5月11日
 第5期 自 2020年5月12日 至 2020年7月13日
 第6期 自 2020年7月14日 至 2020年9月11日

項 目	第 4 期	第 5 期	第 6 期
(A) 配当等収益	△ 12円	△ 4円	△ 1円
受取利息	—	—	1
支払利息	△ 12	△ 4	△ 2
(B) 有価証券売買損益	△ 301,751	3,793,536	3,388,723
売買益	324,742	4,098,342	3,622,825
売買損	△ 626,493	△ 304,806	△ 234,102
(C) 信託報酬等	△ 116,285	△ 139,410	△ 144,143
(D) 当期損益金 (A + B + C)	△ 418,048	3,654,122	3,244,579
(E) 前期繰越損益金	640,613	△ 389,554	2,475,753
(F) 追加信託差損益金	2,491,992	2,566,841	3,321,472
(配当等相当額)	(1,977,584)	(2,025,634)	(2,412,998)
(売買損益相当額)	(514,408)	(541,207)	(908,474)
(G) 合計 (D + E + F)	2,714,557	5,831,409	9,041,804
(H) 収益分配金	△ 655,404	△ 649,684	△ 1,368,630
次期繰越損益金 (G + H)	2,059,153	5,181,725	7,673,174
追加信託差損益金	2,491,992	2,566,841	3,321,472
(配当等相当額)	(1,977,584)	(2,025,634)	(2,412,998)
(売買損益相当額)	(514,408)	(541,207)	(908,474)
分配準備積立金	686,288	2,614,884	4,351,702
繰越損益金	△ 1,119,127	—	—

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第 4 期	第 5 期	第 6 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円	148,363円	30,472円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	2,498,541	3,214,107
(c) 収益調整金	2,073,944	2,566,841	3,321,472
(d) 分配準備積立金	1,341,692	617,664	2,475,753
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	3,415,636	5,831,409	9,041,804
(f) 分配金	655,404	649,684	1,368,630
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	2,760,232	5,181,725	7,673,174
(h) 受益権総口数	65,540,434口	64,968,489口	68,431,543口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ			
1 万 口 当 り 分 配 金	第 4 期	第 5 期	第 6 期
	100円	100円	200円

- 〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

年2回決算型

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			株 式 先 物 比 率	公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	商 品 先 物 比 率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 み 分 配 金	期 中 騰 落 率						
	円	円	%	%	%	%	%	%	百万円
1 期末 (2020年 3月11日)	10,805	10	8.2	48.0	22.3	159.6	32.7	53.4	246
2 期末 (2020年 9月11日)	11,783	10	9.1	30.3	27.9	216.7	18.7	35.0	232

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 先物比率は買建比率-売建比率です。

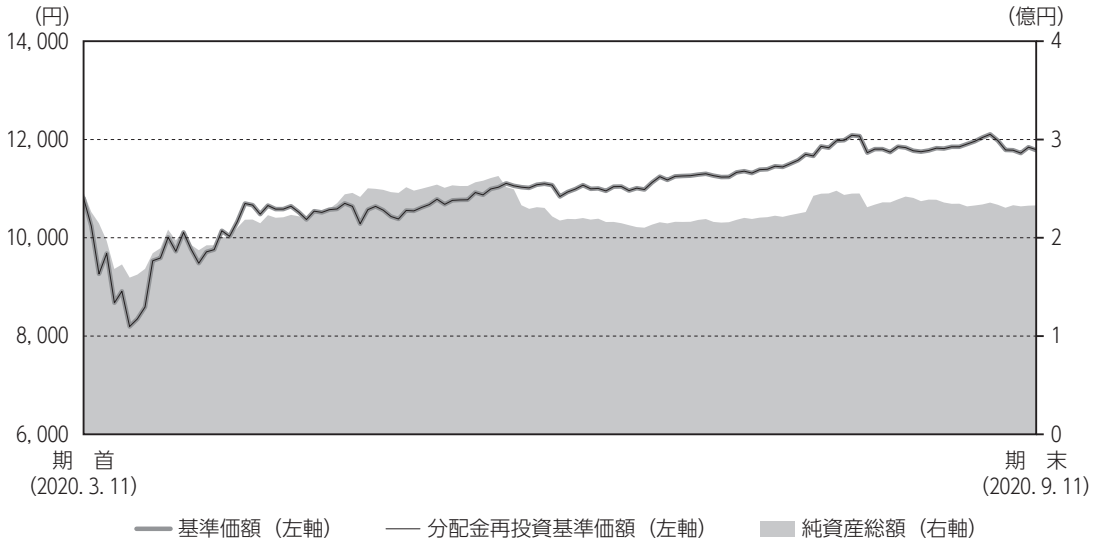
(注4) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



- * 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期首：10,805円

期末：11,783円（分配金10円）

騰落率：9.1%（分配金込み）

基準価額の主な変動要因

主に金価格の上昇や米国株式市況の上昇、米国金利の低下（債券価格は上昇）を受けて、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

米国3倍4資産リスク分散ファンド（年2回決算型）

年 月 日	基 準 価 額		株 式 先 物 比 率	公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	商 品 先 物 比 率
	円	騰 落 率					
(期首)2020年3月11日	10,805	—	48.0	22.3	159.6	32.7	53.4
3月末	10,110	△ 6.4	34.9	26.1	200.6	23.0	36.7
4月末	10,702	△ 1.0	31.8	28.0	211.7	19.4	34.6
5月末	10,873	0.6	31.0	33.6	213.5	19.2	35.0
6月末	11,127	3.0	30.6	36.2	212.6	19.2	34.8
7月末	11,664	8.0	30.2	33.6	212.3	18.7	34.6
8月末	11,907	10.2	31.1	38.3	211.0	18.7	34.3
(期末)2020年9月11日	11,793	9.1	30.3	27.9	216.7	18.7	35.0

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2020.3.12～2020.9.11）

■米国株式市況

米国株式市況は上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首から2020年3月下旬にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念から大幅に下落しました。しかし3月下旬以降は、各国の大胆な景気刺激策や経済活動再開期待、新型コロナウイルス治療薬開発への期待などを好感し、大幅に上昇しました。9月に入ると、ハイテク株を中心に米国株式市況は下落したものの、当作成期を通してみると、上昇して当作成期末を迎えました。

■米国債券市況

米国金利は低下しました。

当作成期首から2020年3月下旬にかけては、市場の混乱を受けて現金化の動きが強まり、米国債を売る動きにもつながったことから金利は一時上昇しましたが、F R B（米国連邦準備制度理事会）が無制限の量的緩和策を含めた各種の流動性供給策を実施したことで市場の落ち着きが見られはじめ、3月末にかけて金利は再度低下しました。4月から当作成期末にかけては、金利はおおむね横ばいでの推移となりました。

■米国リート市況

米国のリート市場は下落後、緩やかな戻り基調となりました。

当作成期首から2020年3月後半にかけて、米国リート市場は下落しました。世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大する中、米国でもニューヨーク州などを中心に感染が拡大しました。人の移動は厳しく制限され、経済減速への懸念などが台頭し、リート市場は下落しました。4月は、積極的な金融・財政政策の発表や、長期的にみて割安なバリュエーション水準などから、戻りを試す展開となりました。5月から6月前半にかけては、新型コロナウイルスのワクチン開発や経済活動再開への期待感などから上昇しました。6月後半から7月にかけては、米国などで新型コロナウイルスの感染拡大が続いたことなどから、投資家の警戒感が高まり、軟調な推移となりました。8月から当作成期末にかけては、ワクチン開発進展への期待感や、世界的な金融緩和を下支えに持ち直しつつあるマクロ経済指標などを背景に、投資家のリスク選好は改善傾向となり、米国のリートは上昇しました。

■金市況

金価格は上昇しました。

当作成期首から2020年3月半ばにかけては、新型コロナウイルス問題への懸念が強まったことに

米国3倍4資産リスク分散ファンド（年2回決算型）

加えて原油価格が急落したことで信用不安が高まり、あらゆる資産を売って米ドルを買う動きになりました。そのため、通常は安全資産としての側面が強い金も大幅な下落を余儀なくされました。もっとも、金融市場が落ち着きを取り戻すと、金価格はすぐに値を戻しました。その後は、F R B（米国連邦準備制度理事会）をはじめとした各国の中央銀行による強力な金融緩和策などが支えとなり、堅調に推移しました。7月には、米中が互いに総領事館を閉鎖するなど両者の関係が一段と悪化したことも追い風となり、金価格は上昇ペースを加速させ、7月下旬に米ドルベースでの過去最高値を更新すると、8月上旬まで上昇が続きしました。しかし、米国で新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向に転じたことやワクチン開発への期待が高まったことで、経済の先行きに対する過度な悲観論が後退すると、上昇が一服し、その後は高値圏での横ばい推移が継続しました。

為替市況

米ドル円は一進一退の推移となりました。

当作成期首から2020年3月下旬にかけては、市場の混乱が米ドル需要の高まりにつながったことから、米ドルは対円で上昇（円安）しました。しかし3月末にかけては、F R B（米国連邦準備制度理事会）を中心とした当局の対応を受けて市場が落ち着いたことから米ドル買いの動きが抑制され、米ドルは対円で下落（円高）しました。当作成期末にかけては、米国の良好な経済指標や新型コロナウイルスの第2波警戒を受けたリスク回避の動きなどを受けて上下する場面はあったものの、一進一退の動きとなりました。

前作成期末における「今後の運用方針」

当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態でも高位となるように組み入れます。

米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

ポートフォリオについて

（2020.3.12～2020.9.11）

■当ファンド

「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が高位となるように組み入れました。

■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行いました。各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行いました。また、残存期間の短い米国国債にも投資を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2020年3月12日 ～2020年9月11日	
当期分配金（税込み）	（円）	10
対基準価額比率	（％）	0.08
当期の収益	（円）	10
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	1,782

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 31.92円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	746.93
(c) 収益調整金	1,010.73
(d) 分配準備積立金	2.96
(e) 当期分配対象額（a + b + c + d）	1,792.56
(f) 分配金	10.00
(g) 翌期繰越分配対象額（e - f）	1,782.56

（注）✓を付した該当項目から分配金を計上しています。

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



今後の運用方針

■当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態での高位となるように組み入れます。

■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2020. 3. 12~2020. 9. 11)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	62円	0.568%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,927円です。
(投 信 会 社)	(24)	(0.222)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(36)	(0.333)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	7	0.062	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(6)	(0.052)	
(投資信託受益証券)	(1)	(0.010)	
有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
そ の 他 費 用	3	0.028	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.016)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(1)	(0.007)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	72	0.658	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

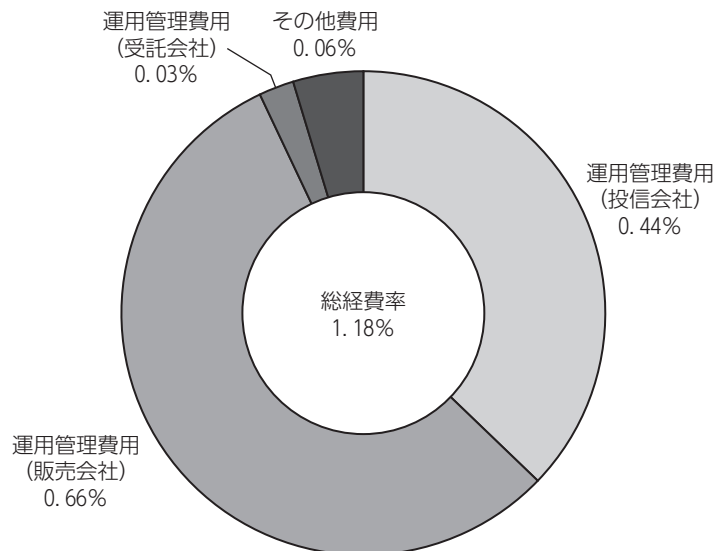
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.18%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2020年3月12日から2020年9月11日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	117,627	124,356	147,019	155,746

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首		当 期 末	
	口 数	評 価 額	口 数	評 価 額
	千口	千円	千口	千円
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	225,115	195,724	232,442	232,442

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年9月11日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	232,442	97.8
コール・ローン等、その他	5,174	2.2
投資信託財産総額	237,616	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月11日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝106.16円です。

(注3) 米国3倍4資産リスク分散マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(499,291千円)の投資信託財産総額(609,321千円)に対する比率は、81.9%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年9月11日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	237,616,456円
コール・ローン等	3,454,116
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド(評価額)	232,442,340
未収入金	1,720,000
(B) 負債	4,670,193
未払収益分配金	197,704
未払解約金	3,179,364
未払信託報酬	1,283,807
その他未払費用	9,318
(C) 純資産総額(A-B)	232,946,263
元本	197,704,166
次期繰越損益金	35,242,097
(D) 受益権総口数	197,704,166口
1万円当り基準価額(C/D)	11,783円

* 期首における元本額は227,789,218円、当作成期中における追加設定元本額は213,167,300円、同解約元本額は243,252,352円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は11,783円です。

■損益の状況

当期 自 2020年3月12日 至 2020年9月11日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 430円
受取利息	306
支払利息	△ 736
(B) 有価証券売買損益	18,771,391
売買益	34,899,475
売買損	△ 16,128,084
(C) 信託報酬等	△ 1,293,190
(D) 当期損益金(A+B+C)	17,477,771
(E) 前期繰越損益金	△ 2,020,650
(F) 追加信託差損益金	19,982,680
(配当等相当額)	(281,298)
(売買損益相当額)	(19,701,382)
(G) 合計(D+E+F)	35,439,801
(H) 収益分配金	△ 197,704
次期繰越損益金(G+H)	35,242,097
追加信託差損益金	19,982,680
(配当等相当額)	(281,298)
(売買損益相当額)	(19,701,382)
分配準備積立金	15,259,417

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程(総額)」をご参照ください。

米国3倍4資産リスク分散ファンド（年2回決算型）

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	631,202円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	14,767,256
(c) 収益調整金	19,982,680
(d) 分配準備積立金	58,663
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	35,439,801
(f) 分配金	197,704
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	35,242,097
(h) 受益権総口数	197,704,166口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金	10円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

運用報告書 第2期 (決算日 2020年9月11日)

(作成対象期間 2020年3月12日～2020年9月11日)

米国3倍4資産リスク分散マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行いません。
主要投資対象	次の有価証券および先物取引 イ. 米国株式を対象とした株価指数先物取引 ロ. 米国国債を対象とした先物取引 ハ. 米国の不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券（以下「リート」といいます。）の指数を対象指数としたETF（上場投資信託証券） ニ. 米国リートを対象としたリート指数先物取引 ホ. 金を対象とした先物取引 ヘ. 米国国債
株式組入制限	無制限

大和アセットマネジメント

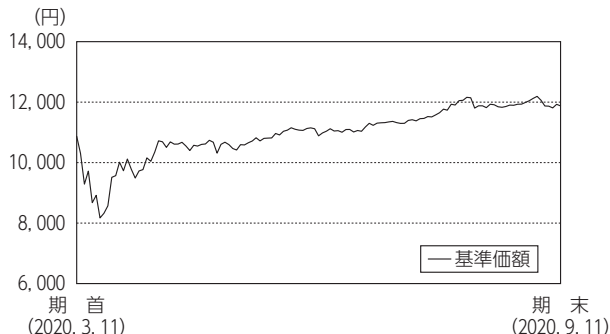
Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移

《運用経過》



◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,869円 期末：11,876円 騰落率：9.3%

【基準価額の主な変動要因】

主に金価格の上昇や米国株式市況の上昇、米国金利の低下（債券価格は上昇）を受けて、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

◆投資環境について

○米国株式市況

米国株式市況は上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首から2020年3月下旬にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念から大幅に下落しました。しかし3月下旬以降は、各国の大胆な景気刺激策や経済活動再開期待、新型コロナウイルス治療薬開発への期待などを好感し、大幅に上昇しました。9月に入ると、ハイテク株を中心に米国株式市況は下落したものの、当作成期を通してみると、上昇して当作成期末を迎えました。

○米国債券市況

米国金利は低下しました。

当作成期首から2020年3月下旬にかけては、市場の混乱を受けて現金化の動きが強まり、米国債を売る動きにもつながったことから金利は一時上昇しましたが、FRB（米国連邦準備制度理事会）が無制限の量的緩和政策を含めた各種の流動性供給策を実施したことで市場の落ち着きが見られはじめ、3月末にかけて金利は再度低下しました。4月から当作成期末にかけては、金利はおおむね横ばいでの推移となりました。

○米国リート市況

米国のリート市場は下落後、緩やかな戻り基調となりました。

当作成期首から2020年3月後半にかけて、米国リート市場は下落しました。世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大する中、米国でもニューヨーク州などを中心に感染が拡大しました。人の移動は厳しく制限され、経済減速への懸念などが台頭し、リート市場は下落しました。4月は、積極的な金融・財政政策の発表や、長期的にみて割安なバリュエーション水準などから、戻りを試す展開となりました。5月から6月前半にかけては、新型コロナウイルスのワクチン開発や経済活動再開への期待感などから上昇しました。6月後半から7月にかけては、米国などで新型コロナウイルスの感染拡大が続いたことなどから、投資家の警戒感が高まり、軟調な推移となりました。8月から当作成期末にかけては、ワクチン開発進展への期待感や、世界的な金融緩和を下支えに持ち直しつつあるマクロ経済指標などを背景に、投資家のリスク選好は改善傾向となり、米国のリートは上昇しました。

○金市況

金価格は上昇しました。

当作成期首から2020年3月半ばにかけては、新型コロナウイルス問題への懸念が強まったことに加えて原油価格が急落したことで信用不安が高まり、あらゆる資産を売って米ドルを買う動きになりました。そのため、通常は安全資産としての側面が強い金も大幅な下落を余儀なくされました。もっとも、金融市場が落ち着きを取り戻すと、金価格はすぐに値を戻しました。その後は、FRB（米国連邦準備制度理事会）をはじめとした各国の中央銀行による強力な金融緩和策などが支えとなり、堅調に推移しました。7月には、米中が互いに総領事館を閉鎖するなど両者の関係が一段と悪化したことも追い風となり、金価格は上昇ペースを加速させ、7月下旬に米ドルベースでの過去最高値を更新すると、8月上旬まで上昇が続きました。しかし、米国で新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向

年月日	基準価額		株式先物 比率	公社債 組入比率	債券先物 比率	投資信託 受益証券 組入比率	商品先物 比率
	円	騰落率					
(期首)2020年3月11日	10,869	—	48.3	22.4	160.6	32.9	53.7
3月末	10,118	△6.9	34.9	26.1	200.7	23.0	36.7
4月末	10,737	△1.2	31.9	28.1	212.4	19.4	34.7
5月末	10,915	0.4	31.1	33.7	214.0	19.3	35.1
6月末	11,181	2.9	30.7	36.3	212.9	19.2	34.8
7月末	11,732	7.9	30.3	33.6	212.5	18.7	34.6
8月末	11,988	10.3	31.1	38.4	211.4	18.8	34.4
(期末)2020年9月11日	11,876	9.3	30.4	28.0	217.2	18.8	35.1

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 先物比率は買建比率－売建比率です。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

向に転じたことやワクチン開発への期待が高まったことで、経済の先行きに対する過度な悲観論が後退すると、上昇が一服し、その後は高値圏での横ばい推移が継続しました。

○為替市況

米ドル円は一進一退の推移となりました。

当作成期首から2020年3月下旬にかけては、市場の混乱が米ドル需要の高まりにつながったことから、米ドルは対円で上昇（円安）しました。しかし3月末にかけては、F R B（米国連邦準備制度理事会）を中心とした当局の対応を受けて市場が落ち着いたことから米ドル買いの動きが抑制され、米ドルは対円で下落（円高）しました。当作成期末にかけては、米国の良好な経済指標や新型コロナウイルスの第2波警戒を受けたリスク回避の動きなどを受けて上下する場面があったものの、一進一退の動きとなりました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

◆ポートフォリオについて

主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行いました。各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行いました。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (先物・オプション) (投資信託受益証券)	7円 (6) (1)
有価証券取引税 (投資信託受益証券)	0 (0)
その他費用 (保管費用) (その他)	3 (2) (1)
合 計	9

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

(1) 公 社 債

(2020年3月12日から2020年9月11日まで)

			買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ	国債証券	千アメリカ・ドル 1,698	千アメリカ・ドル — (1,300)

(注1) 金額は受渡し代金。(経過利子は含まれておりません)。

(注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

(2) 投資信託受益証券

(2020年3月12日から2020年9月11日まで)

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外 国	アメリカ	千口 2 (—)	千アメリカ・ドル 146 (—)	千口 8.9 (—)	千アメリカ・ドル 662 (—)

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 買付()内は分割割当、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 売付()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注4) 金額の単位未満は切捨て。

米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

■先物・オプション取引状況等

先物取引の銘柄別取引状況・残高状況

(2020年3月12日から2020年9月11日まで)

銘柄別		買 建		売 建		当 作 成 期 末 評 価 額		
		新規買付額 百万円	決 済 額 百万円	新規売付額 百万円	決 済 額 百万円	買 建 額 百万円	売 建 額 百万円	評価損益 百万円
外 国	株式							
	債券							
	商品							
	SP500 MIC EMIN FUT (アメリカ)	451	565	—	—	184	—	11
	US 10YR NOTE (CBT) (アメリカ)	3,311	2,914	—	—	1,317	—	6
	E-MICRO GOLD (アメリカ)	648	765	—	—	212	—	△0

(注) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

(1) 投資信託受益証券

(2020年3月12日から2020年9月11日まで)

当 期				期 末			
買 付		金 額		売 付		金 額	
銘 柄	口 数	金 額	平均単価	銘 柄	口 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
VANGUARD REAL ESTATE ETF (アメリカ)	2	15,754	7,877	VANGUARD REAL ESTATE ETF (アメリカ)	8.9	71,751	8,062

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 公 社 債

(2020年3月12日から2020年9月11日まで)

当 期			期 末		
買 付		金 額	売 付		金 額
銘 柄	金 額	金 額	銘 柄	金 額	金 額
		千円			千円
U. S. TREASURY BILL (アメリカ)	2021/8/12	50,507			
U. S. TREASURY BILL (アメリカ)	2021/7/15	49,460			
U. S. TREASURY BILL (アメリカ)	2020/8/13	26,790			
U. S. TREASURY BILL (アメリカ)	2020/9/10	26,789			
U. S. TREASURY BILL (アメリカ)	2020/10/8	26,787			

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 外国 (外貨建) 公社債 (通貨別)

区 分	額 面 金 額	当 期			末			
		評 価 額		組入比率	うちBB格 以下組入 率	残存期間別組入比率		
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5年以上	2年以上	2年未満
アメリカ	千アメリカ・ドル 1,600	千アメリカ・ドル 1,598	千円 169,694	% 28.0	% —	% —	% —	% 28.0

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 外国 (外貨建) 公社債 (銘柄別)

区 分	銘 柄	種 類	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額		償 還 年 月 日
					外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
					千アメリカ・ドル	千円	
アメリカ	U. S. TREASURY BILL	国債証券	—	650	649	68,958	2020/10/08
	U. S. TREASURY BILL	国債証券	—	470	469	49,840	2021/07/15
	U. S. TREASURY BILL	国債証券	—	480	479	50,895	2021/08/12
合 計	銘柄数 金 額	3銘柄		1,600	1,598	169,694	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(3) 外国投資信託受益証券

ファンド名	期 首	当 期 末			
	□ 数	□ 数	評 価 額		
			外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
(アメリカ) VANGUARD REAL ESTATE ETF	千口	千口	千アメリカ・ドル	千円	
	20.2	13.3	1,073	113,942	
合 計	□ 数、金 額	20.2	13.3	1,073	113,942
	銘柄数<比率>	1銘柄	1銘柄	<18.8%>	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) < >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

■投資信託財産の構成

2020年9月11日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	169,694	27.8
投資信託受益証券	113,942	18.7
コール・ローン等、その他	325,684	53.5
投資信託財産総額	609,321	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月11日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝106.16円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(499,291千円)の投資信託財産総額(609,321千円)に対する比率は、81.9%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年9月11日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	608,300,410円
コール・ローン等	178,753,727
公社債(評価額)	169,694,162
投資信託受益証券(評価額)	113,942,590
未収入金	17,063,248
差入委託証拠金	128,846,683
(B) 負債	1,720,657
未払解約金	1,720,000
その他未払費用	657
(C) 純資産総額(A-B)	606,579,753
元本	510,758,731
次期繰越損益金	95,821,022
(D) 受益権総口数	510,758,731口
1万口当り基準価額(C/D)	11,876円

*期首における元本額は512,792,978円、当作成期間中における追加設定元本額は249,861,318円、同解約元本額は251,895,565円です。

*当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、米国3倍4資産リスク分散ファンド(隔月決算型)63,421,384円、米国3倍4資産リスク分散ファンド(年2回決算型)195,724,436円、米国3倍4資産リスク分散ファンド(毎月決算型)251,319,720円、米国4資産リスク分散ファンド(年2回決算型)293,191円です。

*当期末の計算口数当りの純資産額は11,876円です。

■損益の状況

当期 自 2020年3月12日 至 2020年9月11日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	1,867,727円
受取配当金	984,448
受取利息	895,157
その他収益金	16,945
支払利息	△ 28,823
(B) 有価証券売買損益	△ 11,301,637
売買益	5,554,945
売買損	△ 16,856,582
(C) 先物取引等損益	62,137,255
取引益	115,580,616
取引損	△ 53,443,361
(D) その他費用	△ 132,893
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	52,570,452
(F) 前期繰越損益金	44,585,323
(G) 解約差損益金	△ 16,772,435
(H) 追加信託差損益金	15,437,682
(I) 合計(E+F+G+H)	95,821,022
次期繰越損益金(I)	95,821,022

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。